

下野市産業振興計画策定委員会（第2回）

会議要録

【開催日時】 平成26年9月29日（金） 午後1時30分～午後3時40分

【開催場所】 南河内公民館会議室

【出欠】 出席委員：13名、欠席委員1名、オブザーバー：1名（栃木県産業技術センター副所長）、事務局：4名、コンサル：2名

【傍聴者数】 0名

【配布資料】

- 1 商工会員アンケート結果（資料1）
- 2 立地企業アンケート結果（資料2）
- 3 自治医大病院アンケート結果（資料3）
- 4 下野市の社会経済・産業の概況（資料4）

【議事】

1 開会

2 あいさつ

委員長より、本日の議題は、おおむねアンケート結果についての議論になるので、忌憚なきご意見を頂戴したいとのあいさつがあった。

3 オブザーバー紹介

栃木県産業技術センター副所長井上氏より、自分の経験を生かしてお役にたてればと思っているのでよろしく願いいたしたいとのあいさつがあった。

4 議事

（1）商工会アンケート結果について

（2）立地企業アンケート結果について

（3）産業振興計画策定スケジュールについて

○コンサルが資料1～3を説明

（委員）

医療ということとなると自治医大の役割は大きい。ただアンケートをみると医療は自治医大だけのように進められている。医療を「人の体を治す」ということで大きく捉えると医療には様々な道があるが、自治医大に集約した産業だけをアンケートに組み入れてしまうと他に目がいなくなる気がする。

（コンサル）

「人の体を治す」という根本的な話ではなく、自治医大にある種をうまく利用することはできないかということでお医者さんにアンケートを取った。商工会員および立地企業アンケートも同様に商売の種を発掘するためのものである。

(委員)

自治医大のアンケートの中で、私もお客様からドミトリー（宿泊施設）があればいいという声は良く耳にしている。

また、企業城下町として自治医大が核に足りうるのか追求し、そこから展開していく可能性を検討できればと思う。

商工会員・立地企業アンケートでも受発注を考えていきたいという結果が出ていたが、私の会社はこういうものをつくっていて、こういうものを仕入れたいとか、こういうものを売っていききたいとか、ビジネスマッチングというものも1つの形態である。アンケートから潜在的なニーズがあることを受け取れると思うので、そのようなことも考えていいのではないかと思う。

(オブザーバー)

自治医大では人の肌の成分に似た豚の皮膚を利用してワクチンを作る研究をしている。また、食品関係で、栃木県産業技術センターで研究を進め、ユウガオの果肉を使ったヨーグルトを製造販売している企業もある。

(4) 下野市の社会経済・産業の概況について

○コンサルが資料4を説明

(委員長)

P2の人口について、75歳以上が増加し子どもが減少していくことを踏まえたうえで、下野の産業をどのように特徴づければよいのか、みなさんのお考えを伺いたい。

(委員)

災害がないことをアピールして、転入者を引き込んだり、空き地を利用して宿泊施設を建てたりしたらどうか。

(委員長)

委員の意見のとおり、アピールをして、大学に若者、学生を呼べば人口も増える。文部省で留学生受け入れ30万人計画を発表すると、全国の各大学では受け入れ体制を整備していった。栃木県、または自治医大でどれくらい留学生が呼べるのか興味がある。黙っているだけでは、海外からの留学生も増えないし、国内の若者も栃木に目が向かないのではないか。

(オブザーバー)

誰しも手間をかけるのを嫌がるが、そこにビジネスチャンスがある、また、東京から遠くない下野の立地から考えると、東京へ新鮮な食材を輸送するなどの食品産業に大きな可能性があるのではないか。また、企業誘致をするにあたっては、社員やその家族が住むことになるので、そこに住んでいて幸せかどうか重要である。

(委員)

野菜や果物の価値が今は見た目では判断されていないので、努力評価が栄養価や糖度などで目に見える形で示せる仕組みができればいいと思う。

(5) その他

(事務局)

第3回会議について、10月29日(水)午後1時30分から南河内公民館で開催することを説明。事前に通知を郵送する。

5 閉会 (15:40)